

※詳細は、日本医療マネジメント学会雑誌19巻4号及び第21回日本医療マネジメント学会学術総会ホームページ(下記記載)を参照ください。

お問い合わせ先：

第21回日本医療マネジメント学会学術総会

事務局：独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)中京病院

担当：井澤（総務企画課）

〒457-8510 名古屋市南区三条 1-1-10

TEL：052-691-7151 FAX：052-692-5220

E-mail：jhm_chukyo-hosp.jimu@chukyo.jcho.go.jp

運営事務局：日本コンベンションサービス株式会社

担当：北里、兪

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2

大同生命霞が関ビル 14階

TEL：03-3508-1214 FAX：03-3508-1302

E-mail：jhm2019@convention.co.jp

第21回日本医療マネジメント学会学術総会ホームページ

<http://www2.convention.co.jp/jhm2019/>

講習会

開催報告

2018年度医療福祉連携講習会に参加して

長崎県壱岐病院地域包括健康増進センター

松野 江梨子

院内の相談窓口を担当するようになり、外来を巡回し患者さんやその家族の話をつとめると、困っていることの多



会場風景

くは病気のことだけではなく生活環境にあることに気づきました。病気は生活や人生の一部で生活の中心ではありません。そのため、病気以外の環境を整えることの重要性や福祉・介護との連携の必要性を強く感じ、医療福祉分野におけるエキスパートの養成を目指しているこの講習会への参加を希望しました。

座学では、国の政策や地域包括ケアシステム等の学びにおいて、たくさんの連携の輪がつながることで一人一人の生活が支えられていることを知りました。グループワークでは、「円滑な医療福祉連携に大切なこと

は？」というテーマで課題と解決策について話し合いました。参加者にはいろいろな立場の方がおられ、それぞれの立場からみた「連携」を知ることができました。相手の立場を考えて相談すること、お互いが歩み寄って患者さんや地域住民のニーズを叶えようとするのが「連携」の始まりだと感じました。また、実習においては実習先の選定や申し込みから行うことで、「連携」に必要な相手の立場になって考えるということも学びました。当院は離島という特性上、他施設との連携は必ず必要となります。今後も学びを活かし地域や他施設との円滑な連携と、住民のニーズに応えられるよう自己研鑽していきたいと思っております。このたびは、学びの機会を頂きありがとうございました。

2018年度医療福祉連携講習会に参加して

地方独立行政法人府中市病院機構府中北市民病院

地域医療連携室 関岡孝弘

高齢化の進行・人口減少が急速に進行している、当地区では医療・福祉各事業所が一丸となって取り組んでいくことが必要であ



会場風景

り、当院がその先導役を担う必要がありました。当地区での医療・保健・福祉の連携を確固たる形にするためには、私自身のさらなるスキルアップが必要と考え、以前から受講を考えていて当講習会に参加しました。

全5カールの講習の講師陣は各分野のスペシャリストの先生方ばかりでした。現場に出るとなかなか学ぶ機会がない医療・福祉系の基礎から、具体的な事例等を交えた現在の動向も学ぶことができました。また、必修となっている現場実習も、他病院・施設の現場から直接具体的な内容を学ぶことができ、とても貴重で有意義な経験となりました。

全国から集まった仲間ともグループワークでの意見交換や懇親会、グループライン等につながり、意見交換や情報交換はもとより、語り・励ましあえる関係ができたことは、この講習会に参加したもう一つの大きな収穫となりました。

この講習会で学びえた事、共に学んだ仲間とのつながりを大切に、今後は現場で、地域での活動に生かしていけるよう努力していきます。